

## GIS先進国への課題と展望を概観

### 7.5 全国測量技術大会2002シンポジウム「空間情報立国—日本の挑戦—」

7月5日、東京・有明の東京ビッグサイト国際会議場において、GISの研究・開発・応用をリードするキーマンが一堂に集い、シンポジウム「空間情報立国—日本の挑戦—」が開催された。本シンポジウムは「全国測量技術大会2002」の一環として行われたもので、会場にはおよそ350名が集まり、熱心に報告・議論に聴き入った。

#### 日本のインターネットの第一人者、村井慶大教授が講演

午前の部は、東京大学空間情報科学研究センター長の岡部篤行教授の司会で始められ、まず同センターの有川正俊助教授が「GISからS-ITへ」と題した講演を行った。

有川氏によると、もともと専門家向けの技術であったITが消費者向けに変化していったように、GISも「ひとナビ」等の消費者向けの技術に進化しつつあるという。そのため、次世代のGISは「地理」よりも「空間」という概念で捉えたほうが、今後の利用形態をよりの確に反映したものになる。有川氏は、この新しい消費者向けの技術を「S-IT (Spatial IT)」と呼称することを提案、近い将来には「S-IT」がITのコア技術のひとつになると予測した。

次に、日本にインターネットを普及させた第一人者である慶応義塾大学の村井純教授が講演。インターネットやGISに関わる様々な話題が紹介された。なかでも興味



深かったのは、走行中のクルマからワイパーの稼働状況（強弱）を送信することで雨量を把握するシステム。すでに名古屋地域のタクシー会社の協力で実証実験が行われているという。

午前の部の最後は、産業技術総合研究所サイバーアシスト研究センターの橋田浩一氏が「情報インフラに基づく生活世界へのグラウンディング」と題して講演。人にやさしいITを実現するために、デジタル情報を人間の生



活世界に密接にグラウンド（接地）させることの重要性が強調された。

#### GISの技術資格をめぐるディスカッション

午後の部では、東京大学の柴崎亮介教授が司会を務めた。はじめに慶応義塾大学の川嶋弘尚教授から「ITSとGIS」と題して、技術的な課題を中心とする講演があった。続いて、国土交通省国土計画局国土情報整備室の岩本千樹氏により「GISをめぐる政府の取組」について、過去の実績と将来の計画の概略が報告された。詳しくは国土計画局のサイトを参照して欲しいとのこと。

シンポジウムの最後に、GIS学会会長の碓井照子・奈良大学教授の司会で「GISに関する個人の技術資格と世界における技術資格制度の現状」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。

パネラーは、(株)クレアテラの櫛田晴美取締役、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会の井上忠佳専務理事、国土地理院企画部測量指導課の鎌田高造課長、立正大学の鈴木厚志助教授、(社)日本測量協会教育研修センターの齋田諒部長、(株)創建の筒井信之会長、(株)IPSの平下治取締役とバラエティに富んだ顔ぶれ。しかし、最初に各氏の発表が行われたところで時間切れ寸前となり、ディスカッションがほとんど行われなかったのは残念だった。

#### 【関連リンク】

国土交通省国土計画局

<http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/gis/index.html>

## 「共通化」による新たな空間サービスの広がりを展望

### ⑧ 空間情報シンポジウム2002

(株)インフォマティクスは、7月8日、東京・品川で「空間情報シンポジウム2002」を開催した。7年目を迎えた今年の空間情報シンポジウムは、GISの標準化とその応用可能性の広がりに焦点を当てて行われ、およそ1,000名が会場に詰めかけた。



#### 従来「標準化」の限界を指摘

シンポジウムは(株)インフォマティクスの代表取締役社長・長島雅則氏の挨拶で幕を開けた。続いて、東京大学空間情報科学研究センターの柴崎亮介教授により「標準化と共通化——これからのGISを占うキーワード」と題した基調講演が行われた。

柴崎教授は、GIS標準化の現状について、地物という基本モデルはあるものの、具体的な定義や構造はユーザー任せになっていると指摘。これでは形式的にデータ交換が可能になるだけで、各種のシステムが自動的に連携するようなサービスを実現することができない、とこれまでの標準化の限界を明らかにした。そして、これを解決するにはデータや情報の内容まで踏み込んだ「共通化」が不可欠だと提起した。



続いて、2つの特別講演が行われた。まず国土地理院企画部測量指導課課長補佐の北原敏夫氏が「CALS/ECに向けての測量成果電子納品」と題して講演し、同院がまとめた「基準点・地形測量の測量成果電子納品要領(案)」の概要と意義を明らかにした。次に、ゲストとして招かれたアクセンチュア(株)の池上孝一氏が「変革期における次世代ナレッジマネジメント実践」と題して講演。こちらはGISに直結する内容ではなかったが、非常に興味深いものであった。

#### 浦安市がGISを活用した電子自治体づくりを報告

シンポジウムの後半では、各分野における最新の事例が紹介された。

最初に浦安市経営企画部情報政策課電子自治体推進室副主査の醍醐恵二氏から「e-まち“うらやす”の原動力として〜」と題した発表があった。同市では「e-まっぷ」と呼ばれる共用空間データベースをプラットフォームとした電子自治体の構築を推進している。

次に「GISを活用した環境データ提供」の実例として、富士通エフ・アイ・ピー(株)環境システム事業推進部の松田了氏により、環境省大気汚染物質広域監視システム「そらまめ君」が紹介された。同システムのWEBサイトでは、大気汚染状況や注意報などをほぼリアルタイムで提供している。

最後は、NTTコムウェア(株)システム本部の坂本真利氏、笹崎洋一氏が、「SISを活用した電気通信業界向けシステム」と題して、同社の光ファイバー設備管理システムのプレゼンテーションを行った。

#### 【関連リンク】

- 国土地理院「基準点・地形測量の測量成果電子納品要領(案)」  
<http://www.gsi.go.jp/PCOMMENT/ikn20221/denshinouhin.htm>
- 浦安市ホームページ  
<http://www.city.urayasu.chiba.jp/index.html>
- 環境省大気汚染物質広域監視システムそらまめ君  
<http://w-soramame.nies.go.jp>
- NTTコムウェア株式会社商品紹介(光ファイバ設備管理システム)  
<http://www.nttcom.co.jp/xcarrierpro/xcp/shouhin.html>